

## 香取遺産

妙見神社（荒北）

## vol.172 荒北砦跡と妙見神社

荒北砦跡は、荒北区の東側を流れる栗山川に面した台地の先端に位置しています。

伝承によれば、下総国東庄一帯を領した千葉一族東氏の居城、もしくは、同じく千葉一族である国分氏の本拠地であった矢作城の支砦であったといわれています。また、荒北区には国分氏の重臣であった永沢氏の屋敷がかつて存在したなど、千葉氏とゆかりのある地域です。

砦の明確な築造年代は不明ですが、栗源町史では鎌倉時代とされています。構造は単郭で、三重の土塁が巡らされています。また、東側斜面の中腹には腰曲輪、南側の急斜面には出入口である虎口が確認できるなど、防御力を高める工夫が各所に見られます。

中央部には妙見神社が鎮座しています。妙見とは、北極星や北斗七星のことであり、古来より信仰されてきました。千葉一族では妙見を一族の守護神として信仰していたため、千葉氏の所領であった地域の神社にも妙見信仰に関するものが残されています。市内では、岩部城跡の妙見神社跡や鶴崎城跡の星宮神社（妙見様）などがあり、東氏の拠点であった森山城周辺には複数の妙見神社が確認できます。また、荒北砦跡の妙見神社にある「妙見宮」の掛額の裏面には寛延4（1751）年に奉納したことを示す刻名が見られ、千葉氏が去った後も地域の人々の間で信仰されていたことがうかがえます。

堀などの保存状態が良い砦跡ですが、私有地のため、見学する際はご注意ください。